第4回大田区コミュニティバス等検討会議[矢口地域]　議事要旨

|  |  |
| --- | --- |
| 日　時 | 平成30年3月23日（金）15時00分～17時00分 |
| 場　所 | プラムハイツ千鳥　集会室 |
| 出席者 | 外部委員 | 23名中17名出席室町会長（東京工業大学大学院総合理工学研究科准教授）、吉田副会長（矢口地区自治会連合会長）、椿　委員（矢口地区自治会連合会副会長）、府川委員（矢口地区自治会連合会副会長）、小宮委員（古市町会長）、斎藤委員（アルス多摩川自治会長）、畑中委員（東京サーハウス自治会長）、瀬野委員（下丸子商店会長）、道音委員（大田区特定非営利活動法人大身連理事長）、吉川委員（下丸子・矢口・多摩川にコミュニティバスを走らせる会世話人、代理：清川氏）、柳瀬委員（国土交通省関東運輸局東京運輸支局輸送部門主席運輸企画専門官、代理：小野寺氏）、牧野委員（警視庁池上警察署交通課長、代理：根本氏）依田委員（一般社団法人東京バス協会乗合業務部長）原山委員（東急バス株式会社運輸計画部計画課長）、森　委員（東急バス労働組合池上支部長）、山田委員（東京乗用旅客自動車協会城南支部事務局長、代理：山下氏）、野口委員（都南交通株式会社専務取締役、代理：入江氏）、 |
| 大田区職員 | 8名中8名出席山田委員（経営企画部企画課長、代理：厚川氏）、谷口委員（経営企画部財政課長、代理：土屋氏）、中村委員（観光・国際都市部観光課長、代理：金野氏）、張間委員（福祉部福祉管理課長、代理：内山氏）、伊藤委員（地域力推進部矢口特別出張所長）、明立委員（都市基盤整備部都市基盤管理課長、代理：丸山氏）大田委員（都市基盤整備部地域基盤整備第二課長、代理：小泉氏）、山田委員（まちづくり推進部公共交通担当課長）、 |
| 事務局 | まちづくり推進部都市計画課 |
| 傍聴人 | 2名 |

１．開会

・会議成立確認【事務局】

・開会の挨拶【室町会長】

・事務局挨拶【事務局（山田課長）】

・配布資料に係る説明と確認【事務局】

２．議事

１）大田区コミュニティバス等検討会議設置要綱の改正について

【会長】

「大田区コミュニティバス等検討会議設置要綱の改正について」に関して、事務局より説明をお願いいたします。

・資料説明（資料1　大田区コミュニティバス等検討会議設置要綱の改正について）【事務局】

【会長】

事務局から、要綱改正について説明がありましたけれども、何かご質問はありますでしょうか。ご質問のある方は挙手にてお願いいたします。

特に質問がありませんようでしたら、事務局の説明の通り進めさせていただきたいと思います。

２）本格運行移行条件及び本格運行継続条件の導入について

【会長】

「本格運行移行条件及び本格運行継続条件の導入」について、事務局から経緯、目的などの説明をお願いします。

・資料説明（資料2　本格運行移行条件及び本格運行継続条件の導入について）【事務局】

【会長】

ただいま事務局から説明がありましたけれども、質問等ありましたら、挙手にてお願いいたします。

【副会長】

矢口地区の高齢化率は年々高まっていて、たまちゃんバスの収入も増えているが、事業者の経費の内訳がほぼ分からない状態にある。

それから、最近も川崎から来た高齢者の方が、下丸子駅入口のバス停が分からず、駅員に聞いても分からなかったため、色々な所を探してようやく見つけたという事例があった。武蔵新田駅のバス停は駅のすぐそばであるが、下丸子駅は分かりづらい所にバス停があるので、それだけでも利用率が相当違うと思う。

収支率50%を達成できずに運行をやめてしまうと、高齢化率が高まっている中で高齢者を見捨てるのかという問題がある。また、区内の交通不便地域の中でも、矢口地区だけコミュニティバスを運行して不公平だという話も、元々池上地区や馬込地区と比較して、矢口地区が一番必要だから導入されたという経緯がある。それを不公平と言われるとなると、行政はどういう考え方を持っているのか。

また、バスの運営資金が毎年積み立てられている一方、他の区はコミュニティバスに対して何億とかけている区も多いので、大田区も資金を積み立てる考え方をするだけではないと思う。

今回このような条件に決まったので、しょうがないとも思うが、以上の質問に対してお答えをお願いしたいと思う。

【事務局】

事業費の内訳でございますが、バスの運転手代が7割くらいで主でございます。

あと、「駅のそばにバス停を」というお話でございましたが、現在、平成30年度、平成31年度に向けて、東急バスさんが地域の皆様と一緒になって、「下丸子駅のそばの、もともとあったバス停の方に移動できないか」ということをお話し合いさせていただいており、今度は交通管理者様の方にお話に行きたいと考えてございます。それがもしできれば、バス停もわかりやすくなると思いますので、そちらで利用者が増えるのではないかと思っております。

また、「バス停がわかりづらい」というお話もありますので、東急電鉄様および地域のコンビニや三井住友銀行様の方に看板を出させていただき、バス停がどこかというのをわかりやすくしていきたいと考えてございます。

先ほどの「50％と積み立て」というお話と、「他地域との不平等感」という話でございますが、私どもは、矢口地域を見捨てるという気持ちは全くございません。引き続き、矢口と一緒にたまちゃんバスを運行していきたいと考えてございます。その中でどういう基準を設けなければならないか。他の自治体の方にヒアリングをさせていただいた中で、やはり50％というのがほぼ大きなご意見でございました。

また、こちらにも書いてある通り、大田区補助金適正化方針の中で、「補助金の適正化率は1/2」となっておりますので、こちらを踏まえながら、今回、1/2である50％とさせていただいております。

先ほどもうちの事務局の方からご説明があった通り、現段階で48％になると私どもは見込んでおり、残り2％でございます。私どもと東急バス様も協力していきますので、地域の皆様にも協力していただいて、残り2％を超えるよう、一緒に頑張っていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【委員1】

現況で使っているバスの耐用年数が15年ということですが、実際に東急さんも、15年使っているバスはないということで、大体11年～12年くらいで変えるのでないかと思います。今、8年ですから、来年くらいに目途を立てないといけないということです。

そうすると今、山田課長の方からお話があったように、あと2％ですが、年々増えているので、たぶん何もしなくても、48％よりももうちょっと超えるのではないかと思います。

皆さんが地域で努力すれば、たぶん目標には達成すると思うのですが、例えば来年達成したら、バスの購入等を検討するのかどうか。

【事務局】

基本的に、先ほども事務局がお話させていただいた通り、一応、2ヵ年連続で50％を超えていきたいと考えてございます。そこで、購入を考えたいというふうに考えてございます。

先ほど12年というお話もありしたが、一応、東急バス様と私どもの方でお話をした中で、最大15年まで延ばせるというような話をいただいておりますので、先ほども言ったように、2024年までに新しいバスに変えたいというふうに思っております。来年度で50％を超えて、平成31年度も50％を超えれば、その翌年から、購入に向けたお話し合いができると考えてございます。なので、2020年にお話し合いをさせていただいて、2021年くらいに予算立てをできれば、この予定に持ってこられると考えてございます。

先ほども言いました通り、すぐにお話をして、すぐに車を買えるというふうにはなりません。やはり、予算を立てなくてはいけませんし、予算を立てるには1年～2年かかると考えておりますので、できればすぐ、来年度には50％を超えるような努力を私どもと一緒に、地域の皆様もやっていただきたいと考えているところでございます。

【会長】

来年の今くらいに「2％足りませんよ」と言われると、100万円ちょっとですかね。それはなかなか辛い所がありますので。

【事務局】

2％はだいたい30万円です。

1日7名プラス乗っていただければ、超えていくと考えてございます。

【委員1】

皆さんに1日乗ってもらおうかな。

【会長】

そうですよね。ひょっとすると、まだ乗ったことがない高齢者の方とか、小中学生とか結構いるのではないかと思います。

【委員1】

そうですね。

【会長】

私が申し上げたかったのは、もちろんその金額の差もあるのですが、毎週とまでは言わないまでも、毎月どういう調子かというのをちゃんとお知らせした方が良いかなと思います。

【事務局】

今、半年ごとにご報告させていただいていますが、室町先生から言われた通り、毎月できるだけご報告していきたいと考えています。

【委員1】

あと、なかなか難しい話としては、全く利用していないバス停というのが何か所かあるわけです。その辺のバス停を整理することと、やはりもうちょっとバス停を動かすことによって、利用客が増えるのではないかというアイディアもあるので。

その辺も近い将来検討すると、必ずプラスにいくと思います。

【事務局】

とりあえず、平成30年、平成31年につきましては、私どもと部会の方で、今、ご提案を2つ出していると思います。それプラス、今言ったようなことも踏まえながら、1つは、先ほども吉田副会長が言ったように、下丸子駅の方に、できるだけ目立つところにバス停を動かすということができると考えてございます。

今後、交通管理者との話になりますが、そうなれば、1日7名は超えていくのではないのかなというふうに書いてあるというところでございます。

【委員2】

新規の車両を購入した場合、今使っている車両を予備として使うことはできないのですか。

【副会長】

それもずっと言っている。予備車両にして、それをいろんなイベントや点検のときに使うなど。

でも、それはできないんだよね？

【事務局】

一応、古いバスにつきましては、東急様とのお話し合いの中で、基本的には、不安全なものを使っての運行というのは難しいと言われていますので、そちらの方は引き続き、お話し合いをさせていただければと思います。

【副会長】

車検やなんかは、何年くらい今取れているの？取れないの？

【委員3】

理論上は、別に何年でも条件を満たしていれば通ります。

ただ、やはり使えば使うほどガタがくるので、故障の頻度が増えたりとかして、それに対しての修繕の費用が、当然、新車と比べたらその数倍かかってしまうというデメリットがあります。

そことの折り合いというのもひとつあるかと思います。

【事務局】

引き続き、ちょっとご検討させていただければと思います。

【会長】

事業者さんの情報を信頼すべきではないかと思いますね。なんらかの事故が起こってしまったら、この会議どころではなくなってしまいますので。

他にはいかがでしょうか。

「7人」というと、楽観ムードが漂ってくるのがちょっと怖いのですが、是非、毎月モニタリングしていただいて、半年とか1年後になって、気が付いたら「ちょっと思っていたのと違った」なんてことにならないように。

是非、また周辺の方々にもお声をかけていただいて、多少危機感を煽るようなかたちで、達成できるものであれば、12月でも達成してしまえばそれはそれでハッピーで、10周年を気持ちよく迎えられる。その次の年になるかもしれませんけども。

大体よろしいでしょうか。

それでは「たまちゃんバス　本格運行移行条件と継続条件の導入について」の報告は以上としまして、平成30年4月から基準を導入させていただければというふうに思います。どうもありがとうございます。

３）その他

【会長】

委員の方で、他にご意見等、何かございますでしょうか。

【委員4】

うちの方でも、微々たるものですけれども、力になればと思いまして、たまちゃんバスのことを皆さんに知っていただきたいと思って、本日、チラシを作ってまいりました。こういうチラシを、皆様に配布していただくとか、回覧していただくということで、ご利用者様が一人でも増えればと思いまして。

【会長】

これは大変素晴らしいことですね。

【委員4】

掲示板とか、目につくところにも貼っていただければ良いかなと思います。

まだたくさんありますので、必要であればお渡しできます。

【副会長】

あと、今日は商店会の方もいます。商店会で、バスの景品かなんかの券を作るとか。

【委員5】

そうですね。私ども商店会も年に1回イベントがありますので、こういう機会に検討したいと思います。

下丸子駅のそばにバス停を持ってくるのが一番良いですよね。あれが一番何だかわからないですよ。

【委員1】

あと、スーパーとか新しいのがどんどんできるので、そういうところの真ん前に持って行ったり。病院やなんかもいろんなところにできるので、そういうところに持って行ってもらえばどうでしょうね。

【事務局】

まず、今のお金のかからないやり方で50％を超えたい。50％を超えたら、今言ったようないろんなバス停を動かすとかということもできるのかなと考えてございます。

【委員1】

まずは50％を超えようということですね。そのような収入を出しますよという。

【委員6】

このチラシですけど、防犯の方から毎月送ってきていただいているのですが、それとは別ということですね。

【委員4】

交通課の方で、今日の会議で配る用に作ってまいりました。

【会長】

これはもっといっぱい配布された方が良いですね。

【委員1】

高齢者関与事故が管内他地域の1/2は大きいですよね。

【会長】

これは非常に大きいですよ。

【副会長】

町会の掲示板は何か所あるんだろう。

【委員7】

すぐにはわかりませんが、かなりあります。

【会長】

これだけだとなかなか乗れないので、バス停の位置も併せて載せると良いかもしれないですね。

【事務局】

そちらのバス停がどこにあるかというのは、私どもで一緒に突き合わさせていただきます。

３．閉会

【会長】

本日は活発な議論をありがとうございました。

楽観ムードが漂うのだけが非常に心配なのですが、是非、着実に、50％を狙うと往々にして危ないので、せめて52％～53％くらいを狙いつつ、是非、来年の今頃は胸を張ってまいられるように、頑張っていけたらなと思います。

本日は本当にどうもありがとうございました。

以上